

特別支援教育における 支援計画と指導計画



井上雅彦
兵庫教育大学
発達心理臨床研究センター

<http://www.edu.hyogo-u.ac.jp/mainou/index.html>

個別の教育支援計画の目的

- 障害のある子どもにかかわる様々な関係者(教育, 医療, 福祉等の関係機関の関係者, 保護者など)が子どもの障害の状態等にかかわる情報を共有化し, 教育的支援の目標や内容, 関係者の役割分担などを明確にする

「個別の支援計画」と「個別の教育支援計画」

- ・ 平成14年12月「障害者基本計画」(内閣府)
 - 「障害者については、乳幼児から生涯にわたり一貫して、教育、福祉、医療、労働などの関係機関が連携して一人一人のニーズを把握した個別の支援計画を策定して効果的な支援を行う」
- ・ 「個別の教育支援計画」とは、その「個別の支援計画」を教育機関が中心となって策定する場合のもの。基本的には「個別の支援計画」と同じ

「個別の指導計画」

- ・ 盲学校・聾学校及び養護学校学習指導要領
 - － 自立活動における個別の指導計画の作成と重複障害者の指導における「個別の指導計画」の作成が義務付けられている
 - － 全国的にみると、自立活動及び重複障害者以外の場合でも、「個別の指導計画」を作成する学校が多い
 - － 小・中学校の特殊学級等においても、「個別の指導計画」を作成するところが多くなっている

個別の指導計画

- 児童生徒一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導が行えるよう、学校における教育課程や指導計画、当該児童生徒の個別の教育支援計画等を踏まえて、より具体的に児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだもの
- 小・中学校におけるLD, ADHD, 高機能自閉症の児童生徒についても、必要に応じて作成することが望まれる。

「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」

- ・ 「個別の教育支援計画」

- 比較的長期のスパンで作成する
- 他機関との連携と情報の共有

- ・ 「個別の指導計画」

- 「個別の教育支援計画」をふまえて作成
- 「個別の教育支援計画」の策定により様式等を見直す(実態把握の部分は重複)
- 今まで作成していた「個別の指導計画」に、長期計画や福祉や医療、労働についての情報を付加し機能を発展させる

「個別の指導計画」 名前() 【様式2-1-①】
 性別() ()部・学校()年生 生年月日(昭和・平成 年 月 日) 年齢()歳

記載者	記載年月日	平成	年	月	日
項 目	改善・克服を目指す課題				
基本的な生活習慣					
運動・動作					
認 知					
コミュニケーション					
社会性・情緒					
その他					
優先課題					
優先課題の 決定理由					
長期目標					
指導期間					

「個別の指導計画」(例示) 「様式2」

名前()の「個別の指導計画」 性別() ()部・学校()年生 年齢()歳 生年月日(昭和・平成 年 月 日) []

記載者	記載年月日	平成 年 月 日	優先課題
改善・克服を目指す課題			
基本的生活習慣			優先課題 の 決定理由
運動・動作			
認知			
コミュニケーション			
社会性・情緒			
その他			

長期目標	指導期間
------	------

短期目標	①	②	③
	(記載:平成 年 月 日)	(記載:平成 年 月 日)	(記載:平成 年 月 日)
指導期間			
指導の形態 授業形態 指導体制			
授業時数			
学習内容			
指導方法			

子どもに対する評価

評価の規準			
評価	(記載:平成 年 月 日)	(記載:平成 年 月 日)	(記載:平成 年 月 日)

名前 () の「個別の指導計画」

【8】

短期目標に対する評価

評価項目	評価	検討課題 (記載:平成 年 月 日)	評価	検討課題 (記載:平成 年 月 日)	評価	検討課題 (記載:平成 年 月 日)
短期目標は適切であったのか	4 3 2 1 良 ← → 否		4 3 2 1 良 ← → 否		4 3 2 1 良 ← → 否	
指導期間は適切であったのか	4 3 2 1 良 ← → 否		4 3 2 1 良 ← → 否		4 3 2 1 良 ← → 否	
学習内容は適切であったのか	4 3 2 1 良 ← → 否		4 3 2 1 良 ← → 否		4 3 2 1 良 ← → 否	
指導方法は適切であったのか	4 3 2 1 良 ← → 否		4 3 2 1 良 ← → 否		4 3 2 1 良 ← → 否	

「個別の指導計画」全般についての年間の評価 (反省) (記載:平成 年 月 日)

評価項目	評価	検討課題	評価項目	評価	検討課題
必要な実態把握ができていたか	4 3 2 1 良 ← → 否		指導の形態・授業形態は適切であったか	4 3 2 1 良 ← → 否	
優先課題は適切であったか	4 3 2 1 良 ← → 否		指導体制・授業時数は適切であったか	4 3 2 1 良 ← → 否	
長期目標は適切であったか	4 3 2 1 良 ← → 否		評価の規準は適切であったか	4 3 2 1 良 ← → 否	
長期目標の指導期間は適切であったか	4 3 2 1 良 ← → 否		評価は適切に行われたか	4 3 2 1 良 ← → 否	

【年間の子どもの評価】

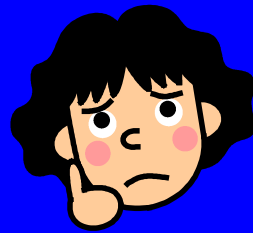
【評価に基づく今後の方針】

(記載:平成 年 月 日)

(記載:平成 年 月 日)

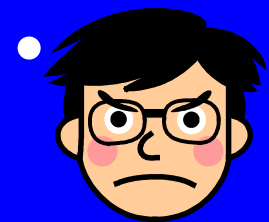
個別の指導計画の考え方を取り 入れると、、、仮想事例から考える

- 運動会の練習に参加させようとするとうとパニックになるA男

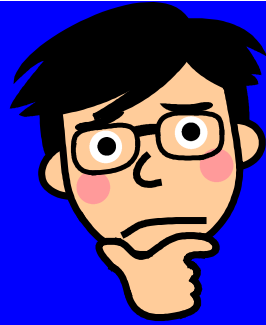


- 保護者の思い

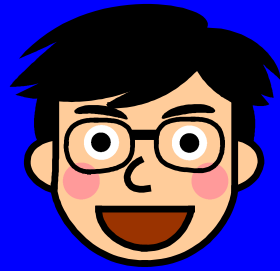
- 「なぜこうまでして、、、何の目的で？」
教師の思い



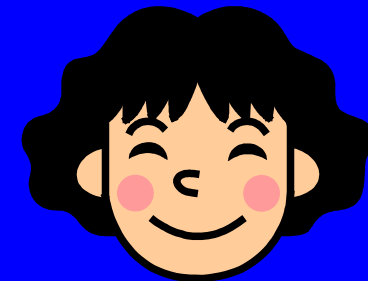
- 「世の中は甘くない、耐える力は必要だ、
やれば慣れてくるに違いない」

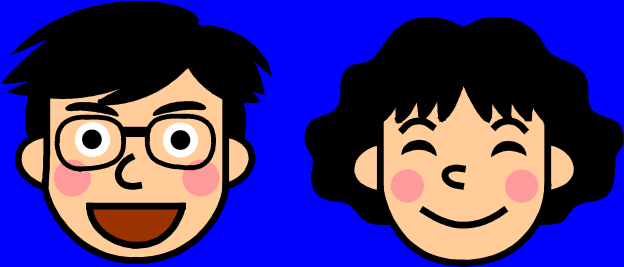


- 教師 A
- 目標を設定しない、具体的介入を行わない
- 「今日はA男、なんか調子が良かった(悪かった)なあ」
- 記録を取らない、保護者に説明しない、子どもの障害に原因をもとめる
- 「最近慣れてきたように思うけど、どやる」
- 「A男は根性ないからなあ」



- 教師 B
- 個別の指導計画作成、目標を明確に設定、保護者に説明、スモールステップで進める
 - 「練習はともかくまず運動場に出ることが目標」
- 達成するための手だてを定義する
 - 「事前に絵カードで予定を知らせる、目標達成したら、一緒にお茶をのむようにしよう」
- 客観的な評価
 - 記録をつけ保護者に説明する

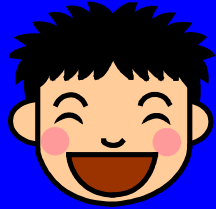


- 教師C 
- 保護者と面接し、重点課題を確認
- 「自傷をしないで取り組める活動を増やしましょう」
- 重点目標に応じたカリキュラムに変更
- 「運動会練習にこだわらず取り組める活動をまず探そう」

教師Bと教師Cの違いは？

- ともに家庭との連携を行っていますが、
- 教師B
- あくまで既存の標準的カリキュラム(マラソン)の中で指導する。個別ニーズは自立の時間に指導する
- 自立活動の個別の指導計画
- 教師C
- 個別のニーズを把握し、それを中心とした個別のカリキュラムを作って指導する
- 個別の指導計画を教育の基本にした実践

実践の中にある「個別の指導計画」 の重要な要素



- 教師Bの対応
- 具体的目標設定、指導手続きの明確化
- 具体的評価、保護者への説明
- 教師Cの対応
- ニーズの把握、保護者参加の目標設定
- 個人の目標にあったカリキュラム作成
- より本質的な「自立」に発展にしていくためには、他に何が必要でしょうか？

日常生活の改善にまで広げるために

- A男は日常生活の他の場面でも自傷がみられている。学校での担任や授業者が変わると自傷をしている。
- 実態把握(アセスメント)の重要性
- *日常生活場面の情報、好みの情報、ニーズに関する情報、発達的情報、医学的情報、生育歴に関する情報など*

保護者

学校・専門機関など

保護者・本人の
希望や生活情報

実態把握
行動観察

アセスメント
(行動観察・検査)

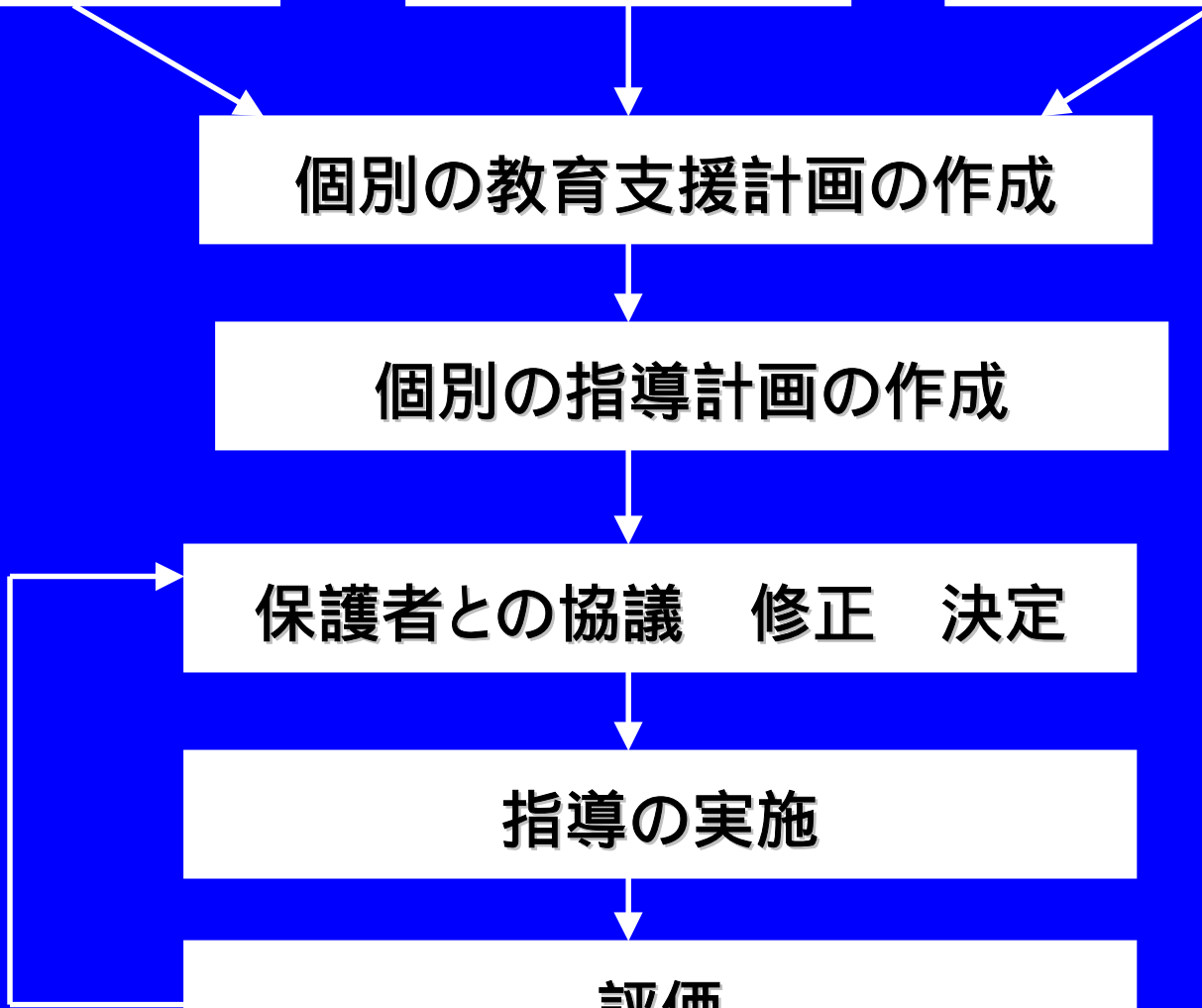
個別の教育支援計画の作成

個別の指導計画の作成

保護者との協議 修正 決定

指導の実施

評価



1. 実態把握

- 家族構成 生育歴 教育・相談歴
- 医学的情報 診断歴 投薬歴 病歴
- 標準化された検査による査定
- *WISC KABC ITPA*など
- *SM社会生活能力検査 KIDS*など
- 学力検査による各教科や単元の理解度の把握
- 対人関係の様子 家庭・学校
- 困った行動の歴史
- *いつから 何をきっかけに*

- 本人・保護者のニーズ
- 対人関係の様子 家庭・学校
- 好みの活動と嫌いな活動
- 学校と家庭で、平日と休日
- 一日・一週間の生活リズム
- 余暇の過ごし方・睡眠リズム
- 一ヶ月の生活地図
- 外出に対する抵抗や問題点

2. ミーティング

- スタッフミーティング
- 保護者とのミーティング
- 他機関や専門家との連携

ミーティングは相互理解のために

複数名によるメリット

保護者の意見の尊重

専門家をいかに活用するか？

3. 長期・短期目標の選定

- 指導目標を評価可能な具体的な行動として決定する。

(×)朝の会に参加することができる。

()友達の名前を呼ぶ間、着席して待つことができる。

- 指導目標に優先順位をつける。

・保護者、本人のニーズ ・現在、将来の有用性

・年齢相応性 ・獲得の容易性、指導の容易性

具体的な目標にするには

- 具体的な目標を立てるには次の3つの内容を入れるようにしましょう。
- **どういう状況で？**
- **指導する場所や人**
- **どのような行動を？**
- **具体的に書く**
- **どれくらいする(しない)のか？**
- **回数・時間・うまさなど具体的基準**

例にならって目標を立てる 練習をしてみましょう

- **課題例** そうじをする
- 授業が始まる前に部屋の玩具を棚に戻す

- **課題例** 食事のあとかたづけをする
-

4. 指導場面の選定

- 各教科
- 道徳
- 特別活動
- 自立活動
- 総合的な学習の時間
- 領域・教科を合わせた指導
- (日常生活・遊び・生活単元・作業)

5. 指導手続きの選定

- 課題分析によるスモールステップ化
- 注意の引き方・指示の出し方
- 教材の工夫・提示の仕方
- プロンプト(援助)の提示の仕方
- 修正の仕方
- ほめ方・フィードバックの仕方
- 記録の方法と教師間の共通理解

目標をステップにわけ

- 複雑な行動を小さなステップにわけて達成する方法です。
- *これを課題分析といいます*
- *課題例 食事のあとかたづけをする*
- 皿をトレイにいれる
- トレイを持つ
- トレイを台所に運ぶ
- トレイを置く
- 皿を流しに入れる

課題分析の練習

- コンビニで好きな物を買う

バックワード・チェイニング 背向連鎖化

- 靴下をはく
- かかとから引き上げる
- 足の半分まで入れておき、かかとを通して引き上げる
- 足のつま先まで入れておき、かかとを通して引き上げる
- ひとりではく

課題分析のコツ

- 地域生活技能の課題分析のためには、「現地」の情報収集や分析が必要
ポットから湯を注ぐ お家のポットは？
- 目標の達成を重視する、獲得しやすく指導しやすいステップを工夫する
5時になったら電話する 腕時計のアラーム
がなったら電話する
- 課題分析の最後に子どもにとって最も大きな賞賛・承認が与えられるようにする

できないときの援助を決めましょう

- 反応を待ってプロンプト(援助)する
- 同じプロンプトの繰り返し、否定的な声かけをやめる
- プロンプトの種類
 - 直接言語(～だよ)
 - 間接言語(何するのかな)
 - 指さし・サイン・ジェスチャー
 - 身体的ガイダンス
 - 刺激プロンプトの使用(文字 視覚シンボル
絵写真)

発達を促す上手な援助のために

- プロンプト(援助)が多すぎると、子どもはプロンプトに頼ってしまい、指示待ちになったり、脱力したり、やる気を失ったりします。
- プロンプトが少なすぎると何度も失敗経験を繰り返すことにより自信をなくしてしまいます。
- 発達を促す上手な援助は、どのようにすればよいのでしょうか

子どもにあった援助を順番に出す

「何するのかな」

間接言語

「レジへ行くんだよ」

直接言語

「レジへ行くんだよ」といってその方向を指さし

直接言語 + 指さし

「レジへ行くんだよ」といってその方向を指さし

身体的に誘導する

直接言語 + 指さし + 身体的ガイダンス

できたときの対応と達成基準

課題ができたときにはどうしますか。

どのようなプラスの対応ができるでしょうか

達成基準の例

援助なしで連続5回以上達成

1週間連続でかたづけができた場合

記録用紙を作る

項目	1	2	3	4	
入店する					
商品棚へ移動					
商品を選択					
商品をレジに持っていく					
財布をだす					
お金を渡す					

6. 指導の評価

- 担任による評価
- 保護者による評価
- 複数名による評価

- 次のステップのために

課題にのれない場合の修正

- 「うまくいかない」という評価では次につながらない。具体的記録から原因を究明する
- 難易度の再評価
- 量・時間を決め、子どもにわかるよう明示する
- 課題を生徒自身の興味にあわせる
- フィードバック ほめ方・修正の仕方の再評価
- 課題に自己決定を導入する

7. 引き継ぎ

- 情報の共有化のために、共通のフォーマットを使用した方が好ましい。
- たとえ、毎年、担任が替わっても…
- 先生によって、指導の方針が変わらないために…

実施上の必要条件と解決案

- 保護者とのコンセンサス
 - 趣旨説明の文書づくりと協力依頼
- 教師間のコンセンサス
 - まずは学部、学年からはじめる
- 時間の確保
 - 会議に優先順位をつけ、事例検討日を年間行事の中に最優先でいれる

- 専門性の維持・確保
- 養護学校には個別の指導計画に関する専門家(スーパーバイザー)をおく。養成する。
- 障害児学級の場合は拠点学級におくか養護学校の専門家が出向いていって連携する。
- 専門家の研究会議を開き情報交換し、研究者
- も参加する

個別の指導計画のチェック項目

- はたして活用されているのだろうか？
- 保護者参加型で作成されているだろうか？
- 学期ごとの見直しでいいのだろうか？
- 個々の目標の妥当性は？
- 系統的な指導が行われているだろうか？
- 評価は適切になされているだろうか？
- 引き継ぎに活用されているだろうか？

はたして活用されているのだろうか？

- そもそも目的は何だったのか？
 - 個別的なニーズを明らかにし、個に応じた教育指導計画を立て、それを基に系統的な教育を行っていくこと
 - 保護者や教師、支援者が共通の目的をもって様々な場面で継続的に教育を行っていくこと

保護者参加型で 作成されているだろうか？

- 学校側から保護者の開示し説明しているところはまだ少ない
 - インフォームドコンセントのためのわかり やすく具体的記述
 - 問題点や課題を共有するために、家庭と連携して取り組むために必要である

保護者参加型で 作成されているだろうか？

- 学校側から保護者の開示し説明しているところはまだ少ない
 - インフォームドコンセントのためのわかり やすく具体的記述
 - 問題点や課題を共有するために、家庭と連携して取り組むために必要である

評価は適切になされているだろうか？

- 学期を通して似たような文章が続く
 - 目標は達成可能で具体的なものに絞る（立てられている短期目標は長期目標では？）
 - 可能な限り客観的な評価をする
 - 結果を保護者や次の指導にフィードバックする

引き継ぎに活用されているだろうか？

- 引き継ぎ会議の開催
- 保護者も主体的に参加できるように

書式にとらわれない

- 障害の程度、種類、目標とする行動などによって利用しやすい書式を選ぶ
- 活用しやすい形を選択することが重要
- 教育目標をチームや家庭、連携機関で共通理解し、引き継いでいくことを達成可能にしていくものでなくては意味がない

- 義務的な指導計画や後付け的な指導計画や評価はいりません。
- 使うこと、評価することで子どもも教師も保護者も良くなる個別の指導計画をめざしてみなさん頑張りましょう

